

に取り組むことが大切であると力説された。明るい桐生市の未来に向けての大きな提言をいただいた非常に有意義な月次会でした。(宮地由高 記)



4 月月次会

経営者の教養としての

伝統芸能・能楽について

4月の月次会は、4月25日(火)午後6時30分より宝生流 教授囑託の星野 尚香さんを講師に招き大広間で1時間にわたり開催されました。

星野さんの能楽活動の原点は、お爺さまが能楽をされていて、幼少より触れ興味を持ち自然に能楽をしていたとお聞きしました。能楽に携わるうちに能楽の歴史や背景に興味を持ち調べるうちに時のリーダーである貴族や大名へ受け継がれ必修アイテムとなり心のより所、人脈形成等社会の成立ちに大切な役割として発展してきました。

日本のリーダーとしての『経営者の教養としての能楽』を再認識すると共に、底深き真髓を感じたのではないのでしょうか。今後の私たちの活動の参考になればと思います。普段接する事の少ない能楽の世界を享受して頂きました星野さんに感謝すると共に今後のご活躍を社員一同願ひ講演会は終了致しました。

参加人数 42名

(堀明 記)



歩く会 4 月例会

中山道旧街道を歩く

まず、私の旧中山道に対する認識は、国道18号を車で走っているときに目にしていた旧中山道という標識のある道が中山道の旧街道という認識です。

そして、4月9日はお天気も良く、歩く会にふさわしい天気でした。

見晴台からの眺望、「群馬と長野の境の石」「熊野神社」に詣でる頃はルンルンしてましたが旧中山道に入ると、下りの山道が続き、また道も狭いものですから黙々と歩き続けることになりました。「皇女和宮様は御籠に乗って」と聞いておりましたが、この狭い道を御籠で通れたのだろうか？御籠が通れないようなことはなかったのかしら？その時は強力が背負子で担いだのかしら？(これは多分に「鬼滅の刃」の影響ですが！)などと想像を膨らませていました。当時の旅はなんと大変だったのでしょうか！私たちは気楽に「旅行」に行きますが「旅」に出るときは水杯をしたということも理解できました。

こんな山道で日が暮れてしまったらどうするのだろうか、追剥が出たらどうするのだろうか、想像力を掻き立てられる山行でした。(平岩千鶴子 記)